

三重県の新エネルギーに関する地域特性

1. 自然環境

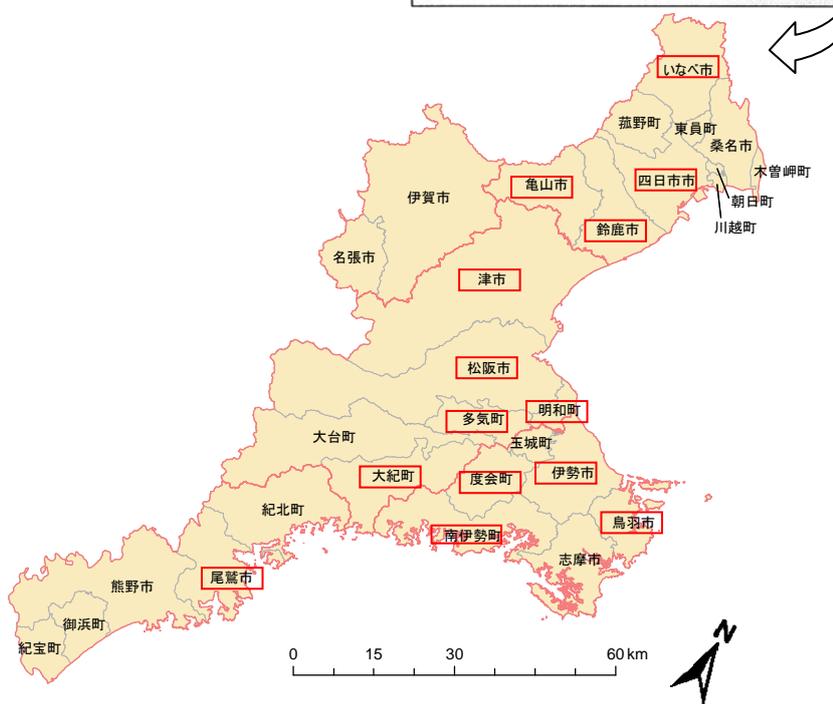
(1) 位置

三重県は、紀伊半島の北西部、日本列島のほぼ中央の太平洋側に位置する。東側は伊勢湾、熊野灘に接し、北側及び西側で愛知県、岐阜県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県と、多くの府県に接している。県の外形は東西約 80km、南北約 170km に渡っており、細長い形状となっている。

三重県は 29 市町で構成されている。このうち、約半数の 14 市町において、新エネルギービジョンが策定されている。(平成 21 年度末時点)



北勢地域	四日市市 桑名市 鈴鹿市 亀山市 いなべ市 木曾岬町 東員町 菟野町 朝日町 川越町
中南勢地域	津市 松阪市 多気町 明和町 大台町
伊勢志摩地域	伊勢市 鳥羽市 志摩市 玉城町 度会町 大紀町 南伊勢町
伊賀地域	名張市 伊賀市
東紀州地域	尾鷲市 熊野市 紀北町 御浜町 紀宝町



新エネルギービジョン策定市町 (平成 21 年度末時点)

図 1-1 新エネルギービジョンの策定状況

出典：三重県資料

(2) 地形

三重県の総面積は 5,773km² で日本の国土面積の 1.53%を占めている。海岸線延長は 1,083km で全国の 3.25%に相当し、面積の割には長い海岸線を持っている。

県の北西部地域には鈴鹿山脈、布引山地等が連なり、中央から南部にかけては台高山脈、紀伊山地がそびえている。河川は一級河川 7 水系 363 本、二級河川 74 水系 193 本が三重県に源を発し、伊勢湾、熊野灘、大阪湾に注いでいる。

(3) 気候

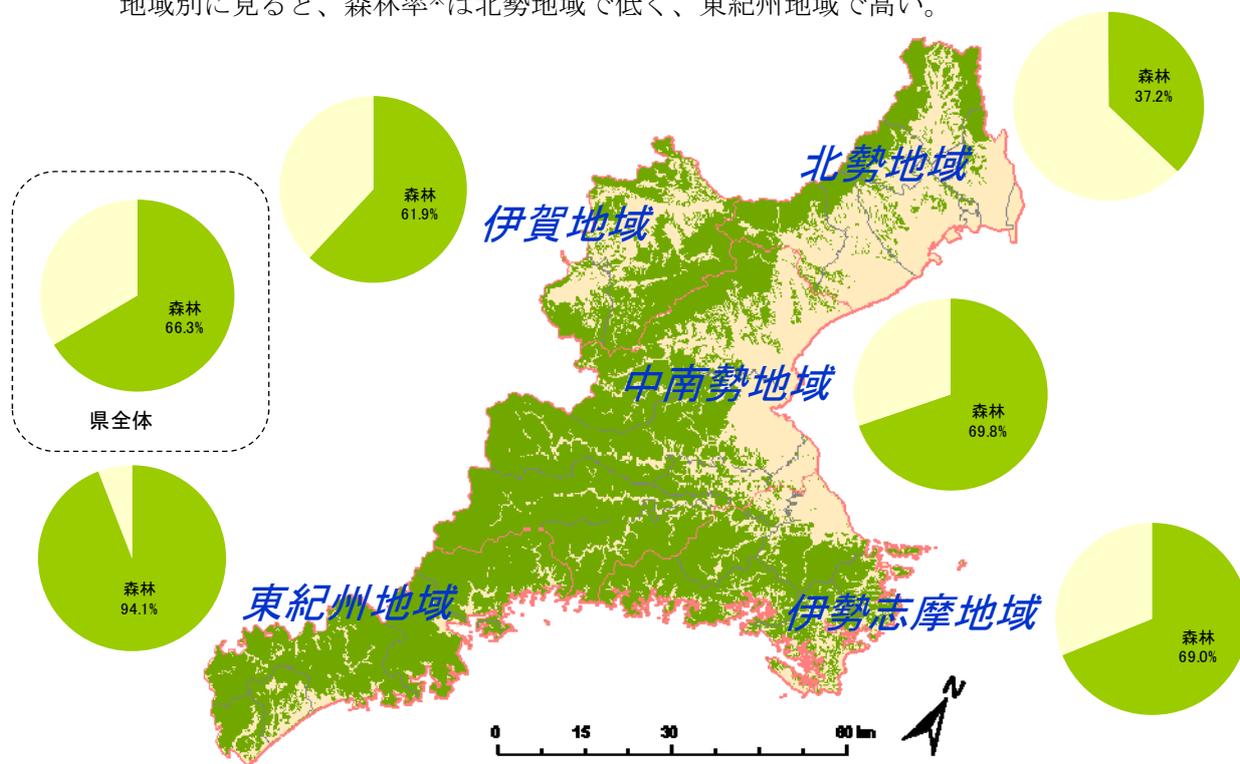
太平洋側の気候で概ね温暖であるが、北部が平均的な降水量であるのに対し、南部は日本有数の多雨地域となっている。また、日照時間*が長く、津では 2018.8h/年、多雨地域の尾鷲でも 1907.7h/年であり、東京 1847.2h/年、札幌 1774.8 h/年、鹿児島 1918.9h/年などと比較してもかなり大きい値となっている。

※気象庁データより、1971 年～2000 年の 30 年間の平均値

(5) 森林の状況等

三重県全体では、森林率は約 66.3%である。

地域別に見ると、森林率※は北勢地域で低く、東紀州地域で高い。

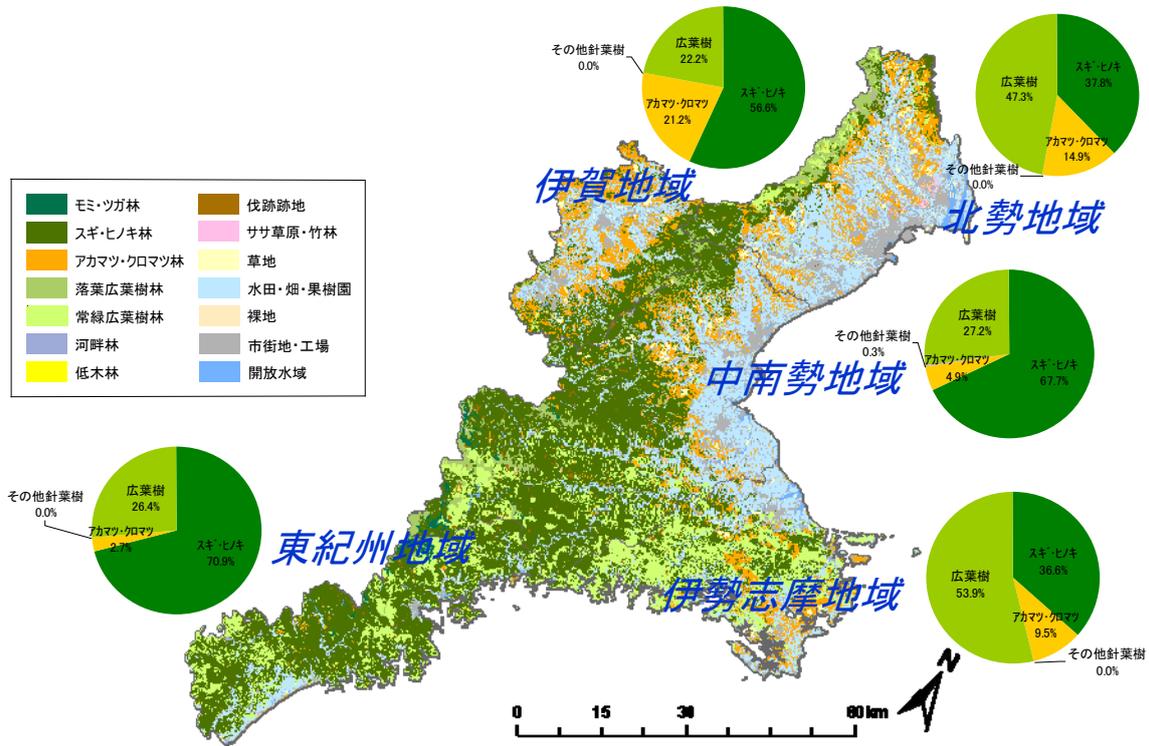


※面積に占める森林面積の割合

資料：国土数値情報 GIS データ（国土交通省）

図 1-3 森林率

植生の分布状況を地域別に見ると、中南勢、伊賀、東紀州ではスギ等の割合が多く、北勢、伊勢志摩では広葉樹が多い。



資料：自然環境保全基礎調査植生調査報告（環境省）
三重県森林簿

図 1-4 植生の分布状況

2. 社会環境

(1) 人口

地域別にみると、人口は北勢・中南勢地域に集中している。

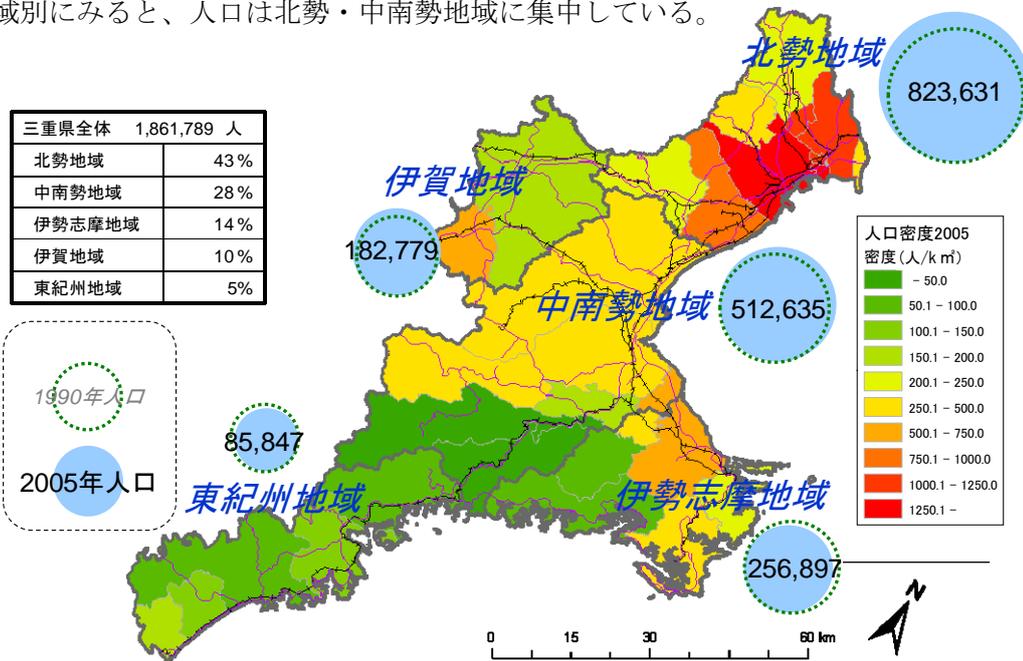


図 2-1 地域別人口（2005 年）

資料：国勢調査（総務省）

人口の減少率は東紀州・伊勢志摩地域で大きくなっている。

一方で、朝日町・川越町では人口が 2020 年までに 2005 年比で 10%以上増加することが予測されている。

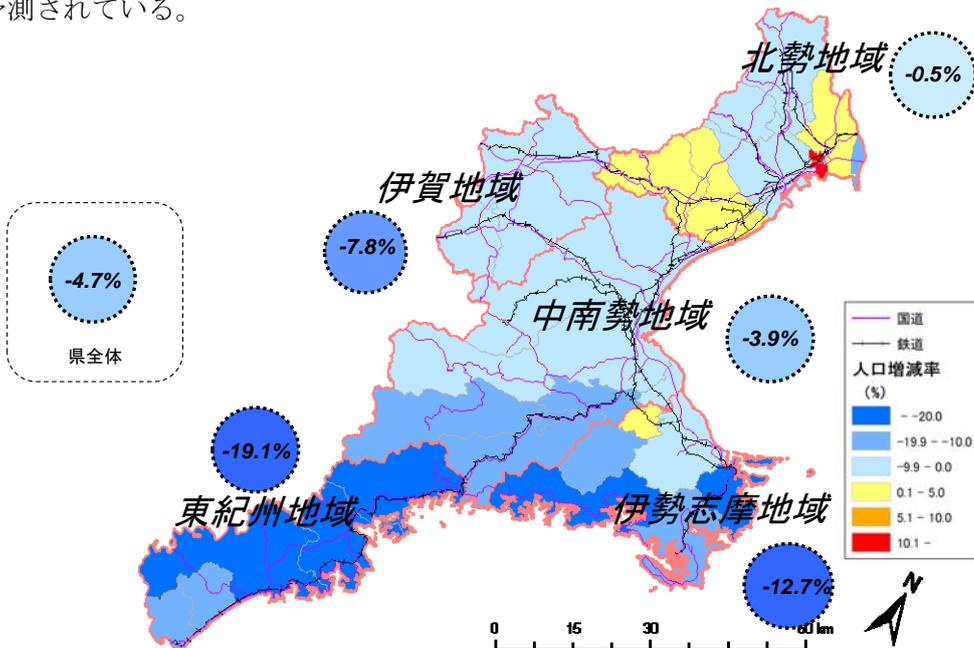
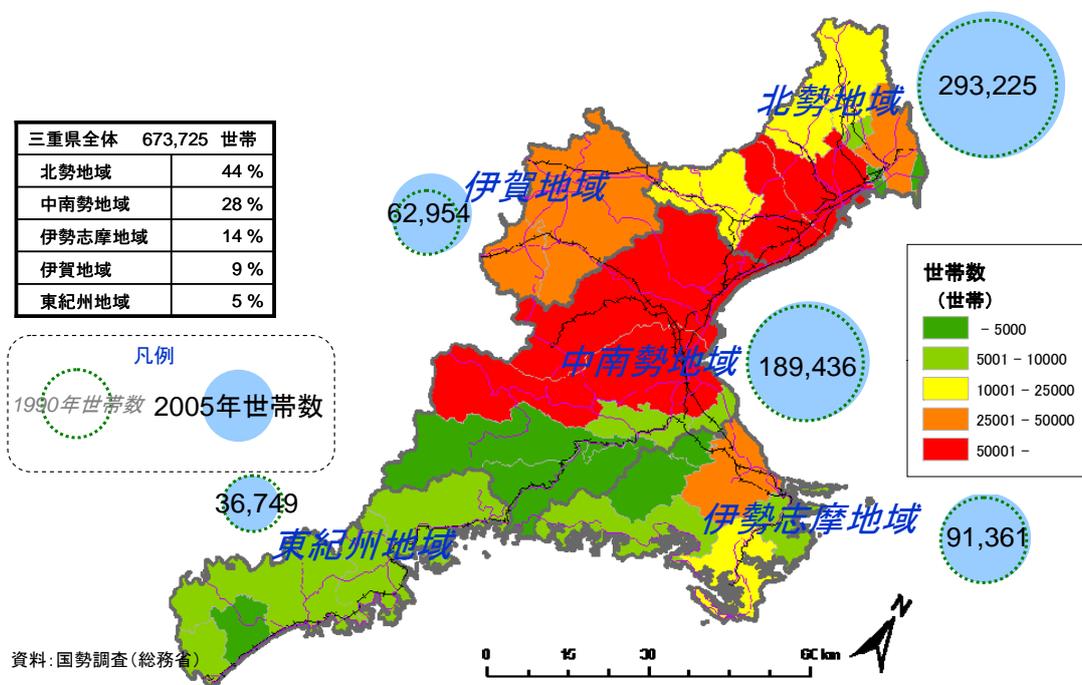


図 2-2 地域別人口の増減率（2005～2020 年度）

資料：日本の市区町村別将来推計人口平成 20 年 12 月推計（国立社会保障・人口問題研究所）

(2) 世帯数

世帯数についても、北勢・中南勢地域に集中している。



資料：国勢調査（総務省）

図 2-3 地域別世帯数（2005 年度）

(3) 産業の状況

三重県における総生産額を地域別に見ると、北勢地域が51.0%、中南勢地域が25.8%を占める。また、地域別の産業構造の特徴としては、北部は第二次産業の比率が多く、南部は第一次産業の占める割合が高いことが挙げられる。

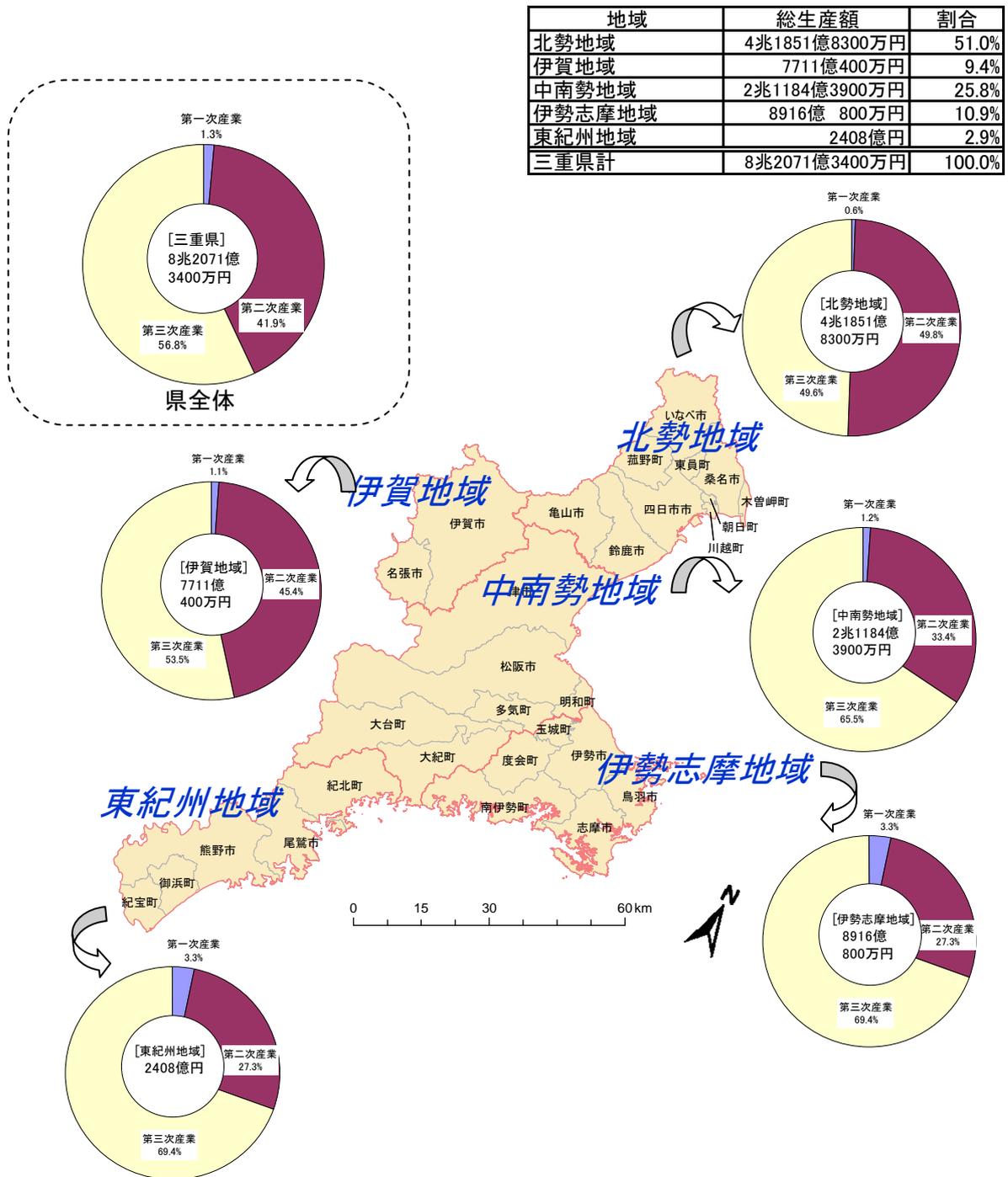
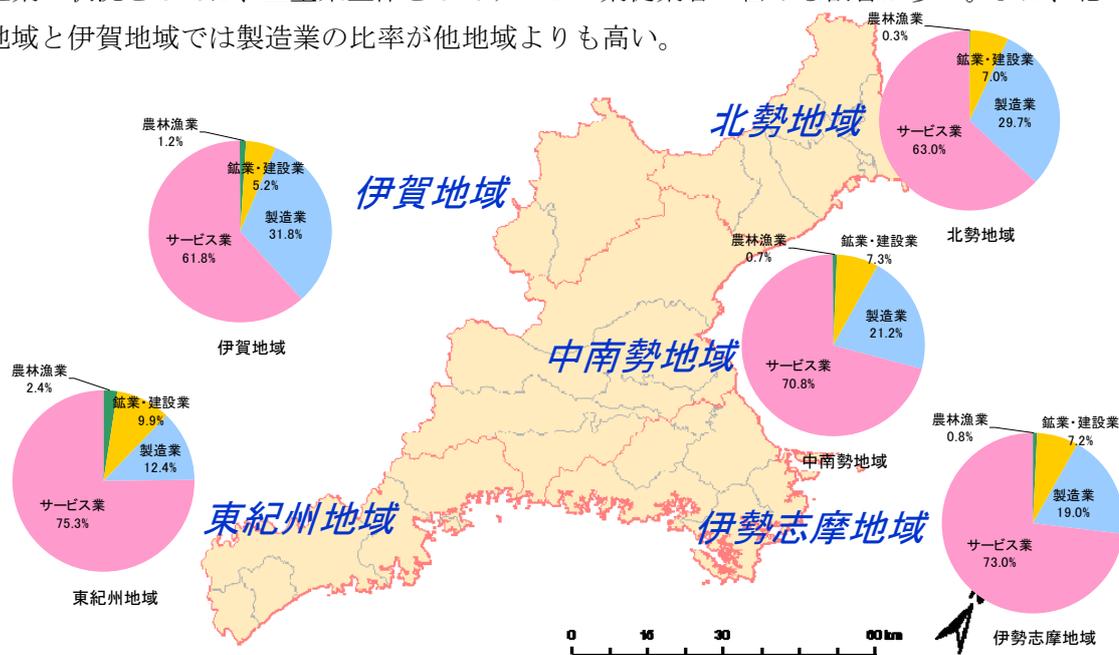


図 2-4 県内各地域の総生産額

注：円グラフの中は、総生産額を表し、グラフには控除項目である帰属利子はマイナスとなりグラフに表象できないため、帰属利子を除いた額となっている。

出典：三重の統計情報 平成19年度産業別市町総生産

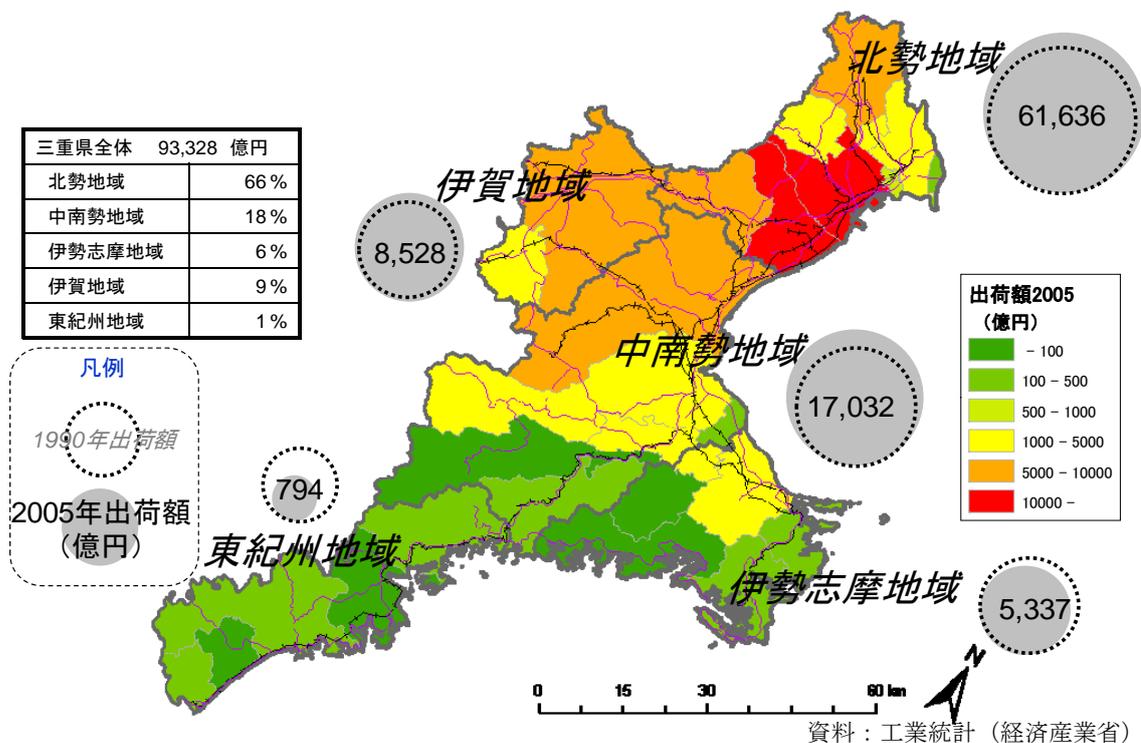
産業の状況としては、三重県全体としてサービス業従業者の占める割合が多い。また、北勢地域と伊賀地域では製造業の比率が他地域よりも高い。



資料：国勢調査（総務省）

図 2-5 地域別の就業者構成比（2005年）

出荷額が 5,000 億円を超える自治体は、北勢地域に集中している。



資料：工業統計（経済産業省）

図 2-6 製造品出荷額（2005年）

(4) 交通の状況

自動車保有台数は、北勢地域で最も多くなっている。

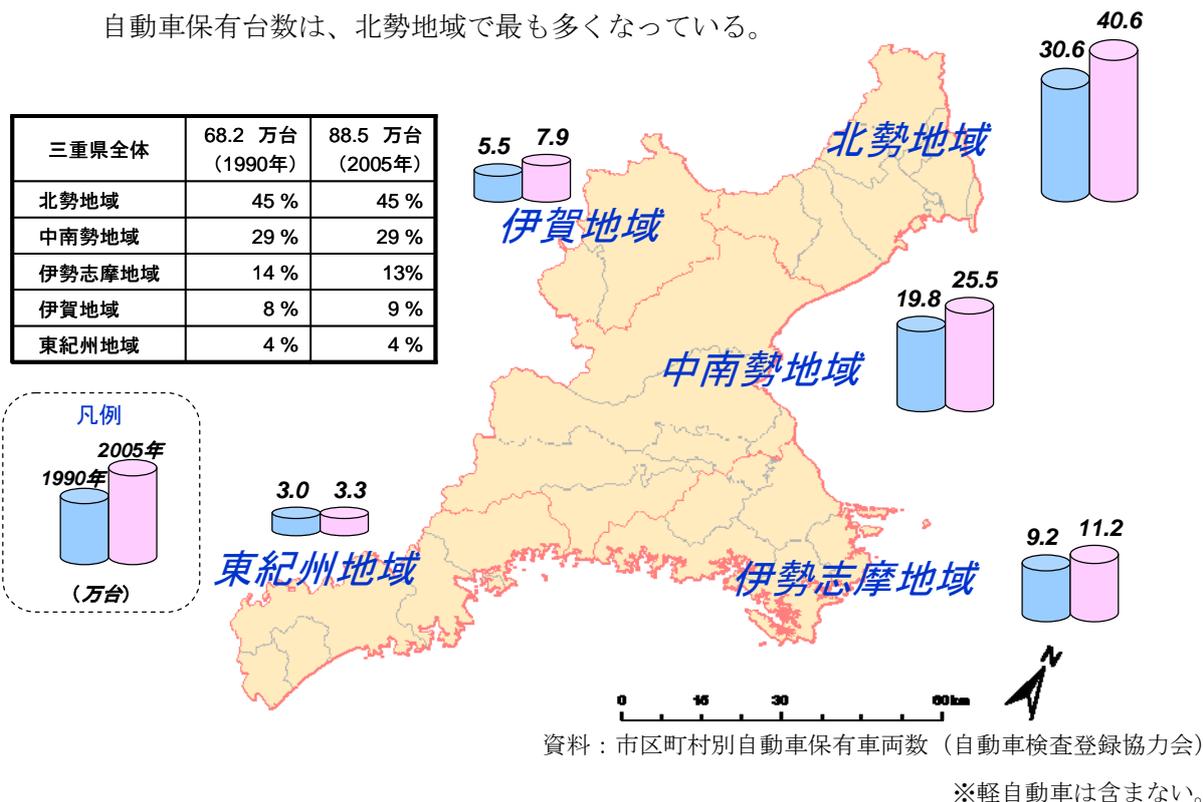


図 2-7 自動車保有台数（1990～2005 年）

3. エネルギーの消費状況

三重県におけるエネルギー消費量は 2007 年度で 348,506TJ となっており、1990 年度(平成 2 年度)以降、概ね増加傾向にある。2007 年度の消費量は 1990 年度に比べて 18%増となっている。特に 2004 年度以降、増加傾向が大きくなっている。部門別に見ると産業部門のエネルギー消費量が高い割合を占めており、全エネルギー消費量の 62%に達する(2007 年度)。ちなみに、国全体の産業部門のエネルギー消費割合は 37%であり、これと比較しても産業部門のエネルギー消費割合が高いことが本県の特徴と言える。(出典：都道府県別エネルギー消費統計(独立行政法人 経済産業研究所))

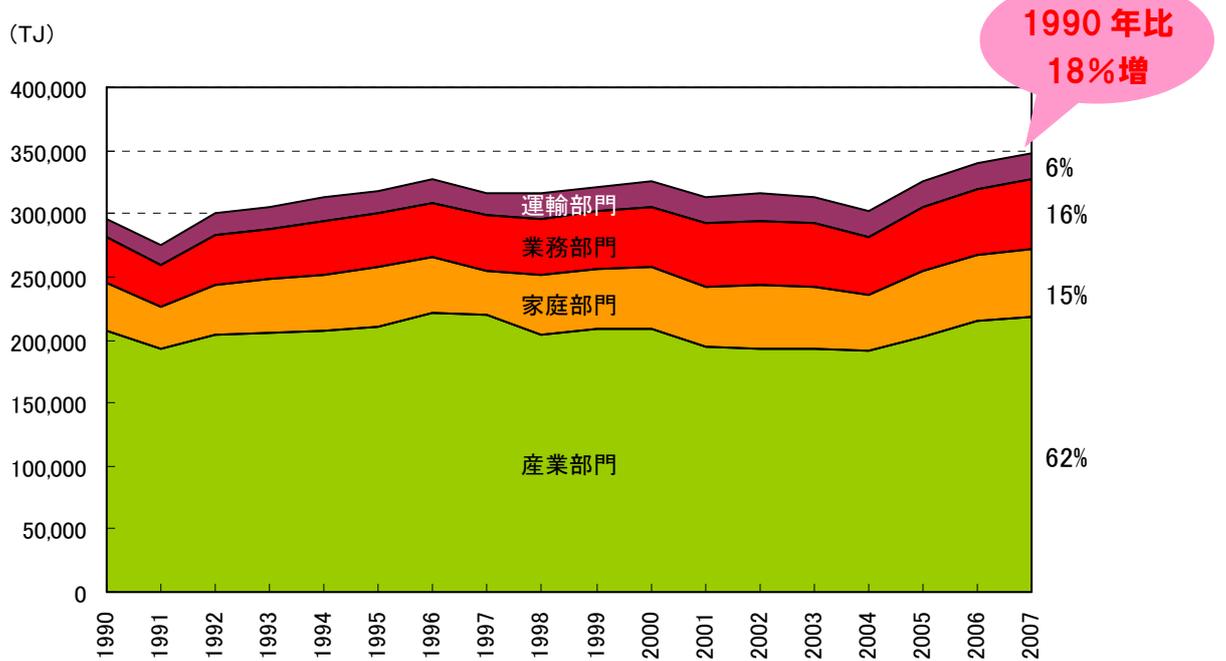


図 3-1 三重県のエネルギー消費の経年変化

表 3-1 三重県のエネルギー消費量の経年変化 (単位：TJ)

	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
産業部門	207,270	192,815	203,478	204,744	207,772	210,762	221,302	219,474	204,170	208,513	208,676	194,760	193,067	192,526	190,796	202,656	214,705	217,745
家庭部門	37,851	33,282	39,841	42,896	44,265	46,228	45,000	35,460	46,879	47,623	48,643	47,665	49,947	49,249	45,329	52,638	51,837	53,826
業務部門	35,561	33,494	40,190	40,401	41,861	42,811	41,803	43,492	44,748	45,869	48,565	49,849	50,810	50,287	45,363	50,440	52,369	55,051
運輸部門	14,226	15,066	16,405	16,953	18,930	18,351	18,768	18,078	19,867	19,015	19,815	20,437	21,986	21,006	20,154	20,569	21,380	21,882
合計	294,907	274,657	299,914	304,995	312,828	318,152	326,874	316,503	315,663	321,020	325,700	312,711	315,810	313,067	301,641	326,303	340,291	348,506

出典：都道府県別エネルギー消費統計(独立行政法人 経済産業研究所)

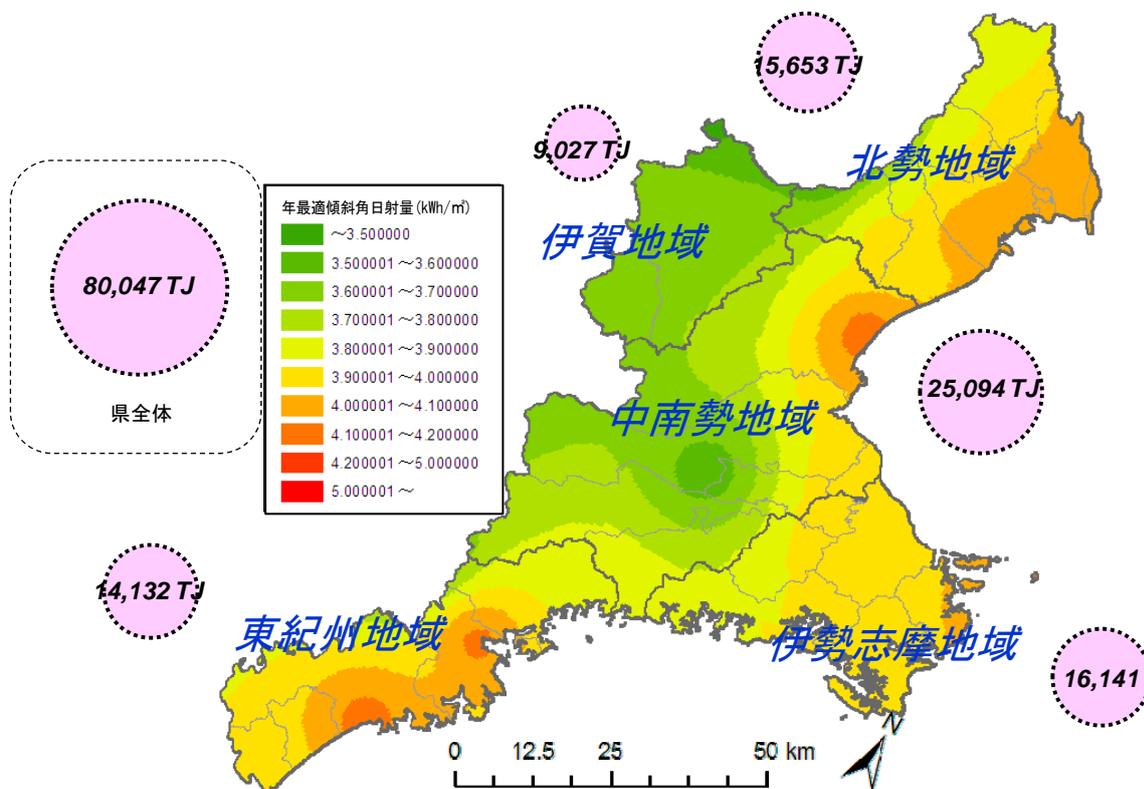
注：エネルギー転換部門のエネルギー消費量は含まない。

注：運輸部門は、家庭の乗用車に係るエネルギー消費量であり、貨物車両、鉄道、船舶に係るエネルギー消費量は含まない。

4. 新エネルギーの賦存状況(速報)

(1) 太陽光発電の賦存量

日射量の分布を地域別に見てみると、海岸部で多く、内陸部で少ない傾向がある。

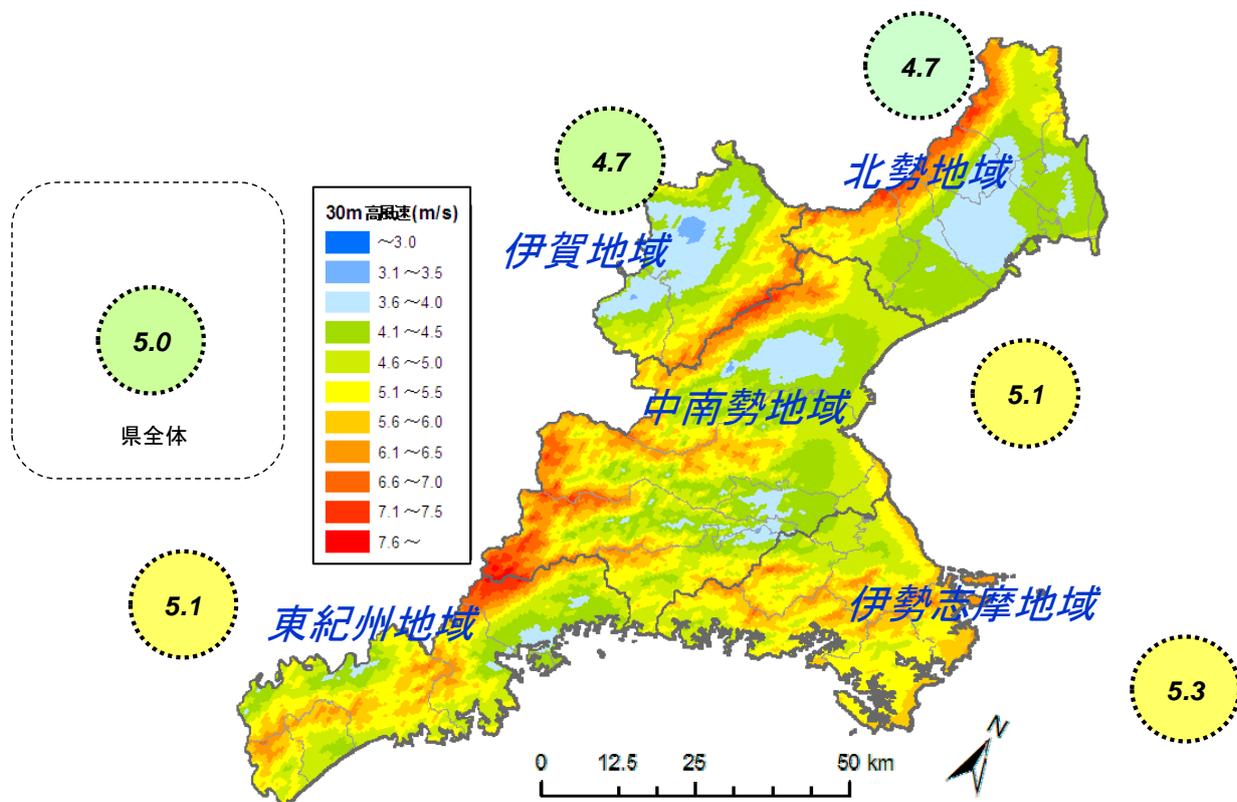


資料：全国日射量データベース（NEDO）

図 4-1 日射量

(2) 風力発電の賦存量

地上高 30m での風速については、他地域に比べて伊賀地域・北勢地域で小さくなっている。局所的には、山岳部で風速が大きくなっている。

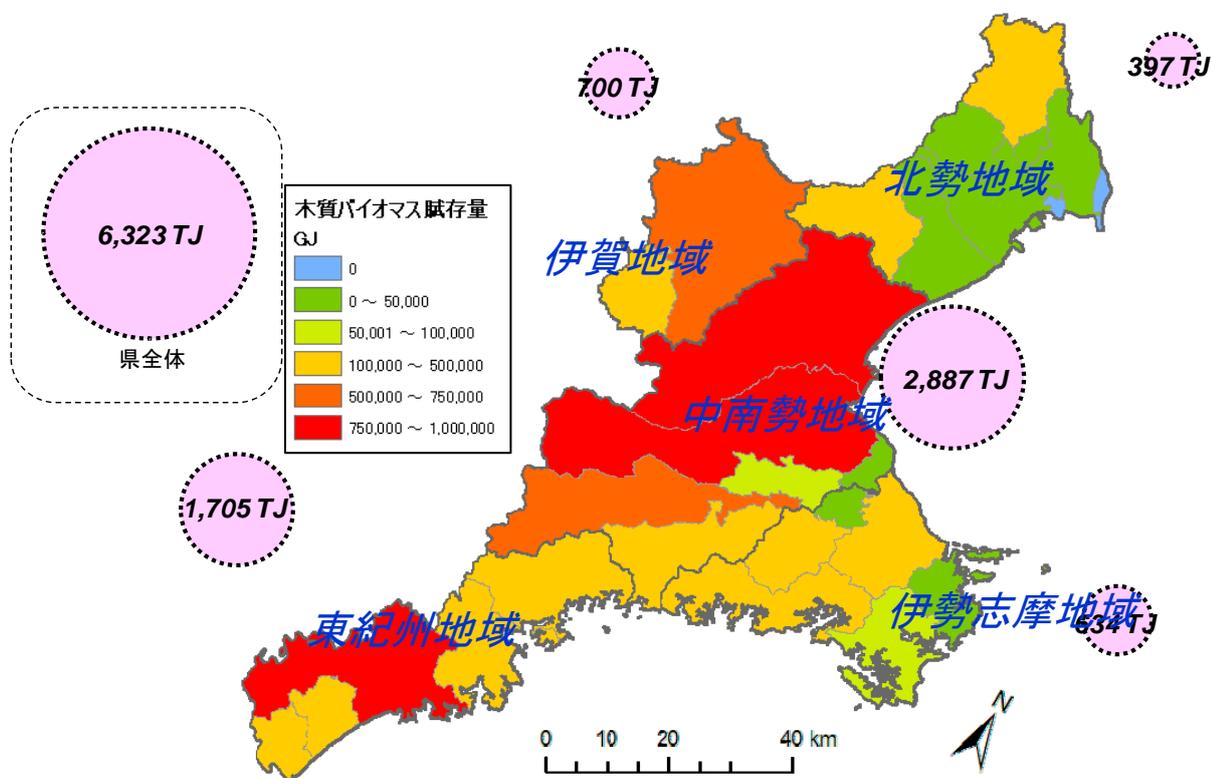


資料：平成 18 年度風況マップデータベース（NEDO）

図 4-2 地上高 30m での風速 (m/s)

(3) バイオマスエネルギーの賦存量

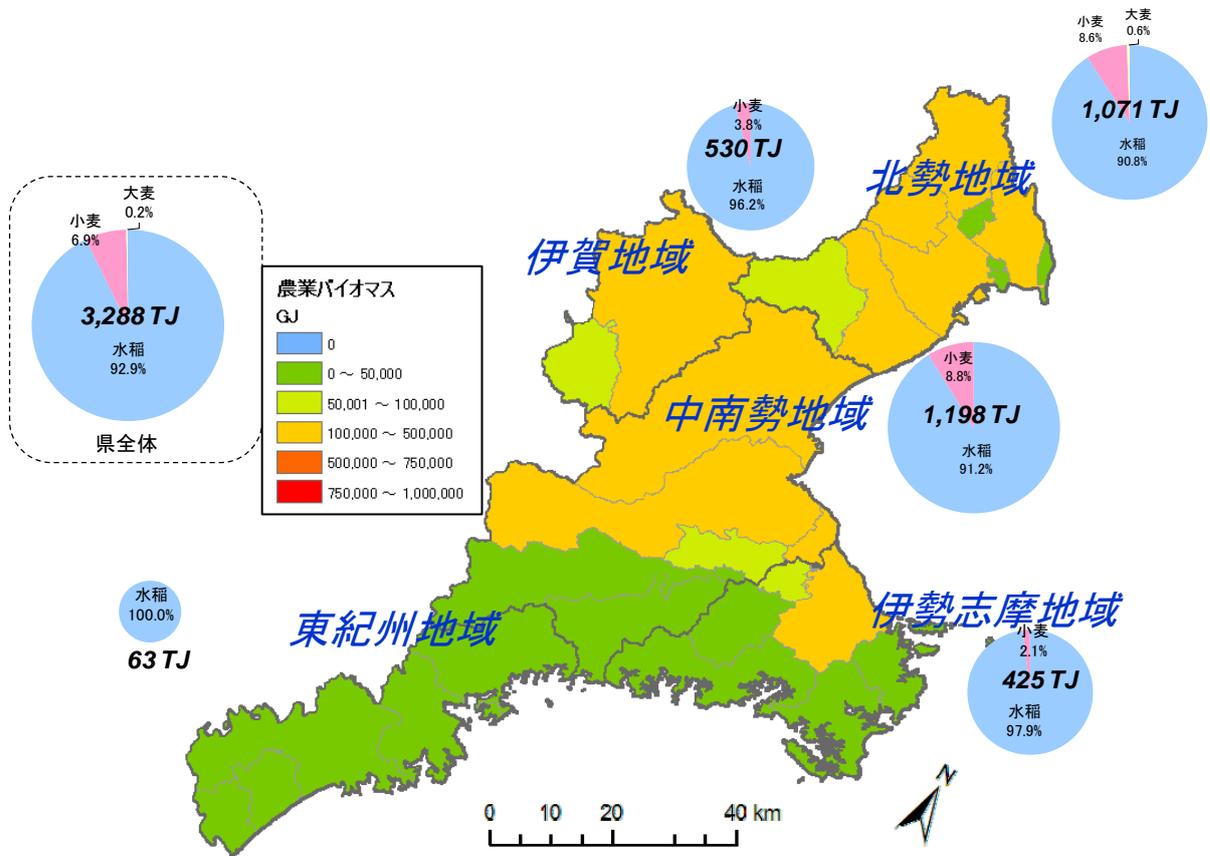
地域別に木質バイオマスの賦存量をしてみると、中南勢地域で最も多く、次いで東紀州地域で多くなっている。



資料：森林簿（三重県）

図 4-3 木質バイオマスの賦存量

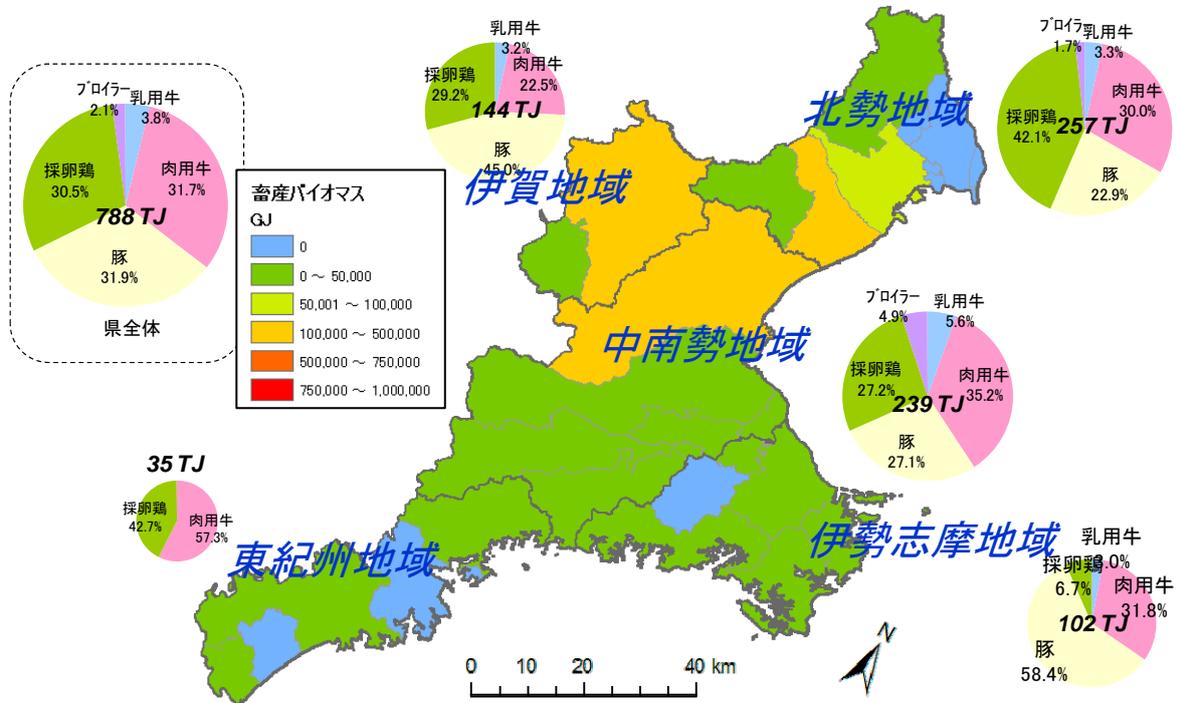
農業バイオマスの賦存量を地域別に見ると、中南勢地域と北勢地域が多い。水稻で発生する稲わらが9割以上を占める。



資料：作物統計調査

図 4-4 農業バイオマスの賦存量

畜産バイオマスの賦存量については、北勢地域・中南勢地域で多い。また、肉用牛・豚・採卵鶏がそれぞれ3割程度を占める。



資料：畜産統計調査

図 4-5 畜産バイオマスの賦存量